



TITLE:

海外通信・支部通信

AUTHOR(S):

CITATION:

海外通信・支部通信. 天界 1923, 4(36): 34-34

ISSUE DATE:

1923-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159999>

RIGHT:

海外通信

上田様

昨日から當地では米國天文學會第三十回の會合が催されて居ます。丁度、日蝕觀測にやつて來た多くの學者達の歡迎をした意味なので、各方面からの代表者が出席し、總人數も可なり多く、此の大國の西端に於ける會合としては、まことに豫想以上のものです。一寸見たところ、ワシントン海軍天文臺の人が居ないだけで、他の有名な天文臺は悉く代表されてゐると言つて好いでせう。それに、合衆國以外からも、カナダ・ヴィクトリアのブラスケト氏、メキシコのガイヨ氏、スペイン・エプロのロデ師、その他瑞典、和蘭、白耳義、佛國、日本(小生等)の國籍も現はれて居り、今日は又、遠く南米からコルドバのペライン氏、ミラブラダのドーソン氏が出席しました。こうした人々が集まつて、今日正午には、ウイilson山天文臺事務所内で午餐會を開かれましたが、其の盛大な様子は御想像下さい。昨日は、ロスアンセルス市内の南加大大學内で集會が開かれましたが、午前中は論文の發表で賑はひ、午後は「日蝕と相對論」といふ題の下に講演會があり、それには御大カンペル、ミチエル、セント・ジョン、トランプラー等の人々が三十分づゝの意見を述べ、最後にボモナ、マコミタ、トウサン諸大學の日蝕觀測隊の報告がありました。立派なコロナの寫眞が撮られてあつて、一同の拍手を受け

ました。此の席上、ヤーキース、ウイilson山、リクの三大天文臺の遠征隊が揃つて曇天に會つたため、一言の報告をせず沈黙をしてゐたのは奇觀でありました!!

今日十八日は、午前中、ウイilson山天文臺の圖書室、午後は市内のカリフォルニア工業研究所で論文發表會が繼續せられ、夜は多くのものはロスアンセルスの會に行きました。

丁度、午後の會の後、午後六時から、リク天文臺に關係あるものだけが大學クラブの一室に會して同窓晚餐會を開きました。小生等も之れに出席しました。不幸にして、昨夜から今曉へかけ、パークレイ大學の附近が大火事となり、カンベル總長とロイシナー教授とは急ぎ歸り往きましたので、此の會合は最も重立つた二人の出席者を失ひました。けれど、それでもエイトケン、タカー、トランブラー等の現臺員を始めとし、ステビンズ、カーテス、フラス、メリル、ペライン等、他の天文臺で牛耳を取つてゐる人々も居、總勢約四十人、之だけでも、アメリカに於けるリク天文臺の勢力はえらいものだと思ひました。

此の席上で異彩を放つてゐたのは、かの三十六時を作つた會社の社長スエジャー老人でした。スエジャー氏は立つて一場の懷舊談をしました。今から四十年の昔、スエジャー氏はワシナー氏がが大望遠鏡製作の契約を加州大學理事會と結んだ話、大レンズをグラーク氏が磨き承諾した事情、ホルデン臺長の苦心、ニウカム豪傑の斡旋ぶり、パーナム氏の來任

パーナード氏の思ひ出など、夢のやうな昔の事を、記憶に思ひ出すまゝに話す有様に誠に面白くありました。

「こうして思ひ出す多くの人々は、今は悉く逝くなつてしまひました。しかし、あの三十六時の大望遠鏡は今立派に存在して、尙、學界に有力な貢獻をしてゐるのは愉快に堪えないところであります」

スエジャー氏は結びました。満場の喝采は暫くは止みませんでした。明日は、一同、ウイilson山へ登ります。そして、山上で、論文の發表會の續きやら、天文臺設備の公開やら、その他種々の社交會が開かれる筈であります。會は夜十時を以つて終り、それから自動車隊を使つてパサデナ市に下つて來る筈でありますから、明晩、それゝ宅に歸るのは夜半を過ぎませう。

パサデナ市にて 山本一清
一九二三、九、一八

○岡山支部十一月通信

一、星圖出品。一日から七日迄開催の岡山縣立圖書館週間展覽會に星圖數枚を出品した。

二、天界研究會。十日(第二主曜日)午後七時から宮原幹事宅で開催した。